

▼ジョサマイシン錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 ジョサマイシン josamycin 【分類】 マクロライド系抗生物質

【単位】 ▼50mg・▼200mg/錠

【常用量】 ■成人：800～1200mg/日 ■小児：30mg/kg/日

【用法】 1日3～4回

【透析患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【その他の報告】 一般にマクロライド系は腎機能障害時に減量の必要はない (Periti P, et al: Clin Pharmacokinet 16: 193-214, 1989)

【特徴】 マクロライド系抗生物質で、蛋白合成阻害が作用機序。

【主な副作用・毒性】 ショック・アナフィラキシー、SJS、偽膜性大腸炎、発疹、肝機能障害、食欲不振、下痢、口内炎など

【吸収】 食事の影響を受けない (1) 腸肝循環する (1)

【F】 初回通過効果を受けるがその程度は不明 (1)

【tmax】 1～2hr (1)

【代謝】 CYP3A4 で代謝 (1)

【排泄】 尿中回収率10%以下 [24hr まで] (1)

【CL】 腎 CL61.5mL/min [イヌ] (1)

【t1/2】 2hr (1)

【蛋白結合率】 約15% [ウマ] (1) 15%で他のマクロライドより低い (Wildfeuer A and Lemme JD: Arzneimittelforschung 35: 639-643, 1985 [abstract])

【Vd】 26.8L/kg [イヌ] (1)

【MW】 827.99

【透析性】 除去されない (1)

【OW 係数】 資料なし (1) エリスロマイシンより15倍親油性 (Wildfeuer A and Lemme JD: Arzneimittelforschung 35: 639-643, 1985 [abstract]) 【薬物動態】 肝硬変患者では減量が必要 (Okolicsanyi L, et al: Int J Clin Pharmacol Ther Toxicol 23: 434-438, 1985)

【相互作用】 エルゴタミン製剤と併用禁忌 (1) シクロスポリン等、CYP3A4 の基質薬物の血中濃度上昇 (1) タクロリムスの血中濃度上昇の可能性 (中村 真依: 日本医療薬学会年会講演要旨集 18: 297, 2008)

【更新日】 20191205

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。